
じゃあね

N・Izumi

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

じゃあね

【Nコード】

N4208Q

【作者名】

N・Izumi

【あらすじ】

最近付き合いが悪いコナンに灰原は…？

バッドエンド

(前書き)

バッドエンド話で、後半は灰原視点

彼が、ある日を境に消えた。

「えー!？」

歩美の高い声が教室中に響き渡る。

「また遊べないの？」

「わりいな…最近忙しくてよ」

コナンはよいしょとランドセルを背負い、立ち上がると歩美に向かって、手を合わせて謝る。

歩美が頬を膨らませていると、元太と光彦が駆け寄ってきて、コナンを問い詰める。

「おい！最近おめえ付き合いわりいぞ！」

「そうですよ！たまには遊んでくれたっていいじゃないですか」

「本当に悪いと思ってるよ！だけど俺にも都合があるんだ…わかってくれ」

「悪いと思ってるなら、たまには僕らに付き合ってくれたって…」

「まあ、いいんじゃない？江戸川くんには用事があるみたいだし」

灰原はコナンの隣で教科書をランドセルに仕舞いながら、ちらりと歩美たちを見た。

「今に始まったことじゃないし…」

彼女の冷えた眼差しが、コナンに突き刺さる。

と、彼女の目が何かを語ってるらしく、コナンは首を傾げた。

「なんだよ？」

歩美たちがブツブツ言いながらコナンから離れていくの確認すると、灰原は口を開く。

「最近変ね、あなた」

痛い所を突かれた気がした。

「変ってなにがだよ？」

「はぐらかしても無駄よ」額に一筋の汗が流れる。

「はぐらかしてねえし、おめえの言ってる意味がわからない」

「そう…ならいいわ。でも…」彼女は足を組み、真っ直ぐにコナンを見詰める。

「工藤くん…あなた…」

「…あんだよ？」

「…気にしないで。今のは忘れて、帰るなら帰りなさい」

「言われなくても帰るよ」

灰原の目がコナンから反れた。

「……さよなら、工藤くん…また、明日ね」

「ああ…また、明日会おうぜ」

何となく、コナンの声が淋しげに聞こえた。

「死んだら…悲しむのは彼女だけじゃないわよ、工藤くん」

気がついたときには彼の姿はもう無かった。

次の日、彼は学校に来なかった。

おかしいとは思っていたが、あの探偵事務所に行こうとは思わなかった。

“また、明日会おうぜ”

昨日彼が言った言葉が脳裏に蘇る。

ちよっと淋しげに聞こえたあの言葉が。

悲しそうに顔を歪めた一瞬を、私は見逃さなかった。
ただ、それだけだ。

…

あれから何日経っても彼は私達に姿を現さなくなった。

あの彼が私達に心配させるわけがない。

考えられることは、ただ一つ。

江戸川コナン…いや、工藤新一の命が絶えたということ。

彼は、奴らに負け、そして

殺された。

どんなに否定しようが、これが真実。

彼女がこの真実を知ったら、きっと泣き崩れることだろう。

だから私は、この真実を誰にも告げない。

ね、
工藤くん……？

（後書き）

はじめまして、N・Izumiiと申します。

ここまで駄文を読んでもくださり、ありがとうございます。

そしてごめんなさい！

何も考えずに書いた結果がこれです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4208q/>

じゃあね

2011年1月28日03時06分発行